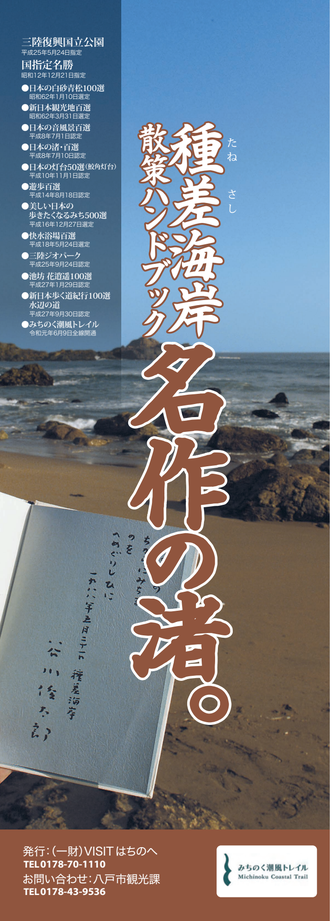

三陸復興国立公園
平成29年5月24日指定
国指定名勝
昭和12年12月21日指定

- 日本の百景松100選 昭和62年1月13日選定
- 新日本観光地百選 昭和62年3月31日選定
- 日本の百景居百選 平成8年7月1日選定
- 日本の道・百選 平成8年7月15日選定
- 日本の財台100選(船角灯台) 平成10年11月1日選定
- 遥歩百選 平成14年8月1日認定
- 美しい日本の歩きたくなるみち500選 平成16年12月27日認定
- 快水浴場百選 平成18年5月24日選定
- 三陸ジオパーク 平成25年9月20日認定
- 池坊 花道選100選 平成27年1月29日認定
- 新日本歩く道紀行100選 名取の道 平成27年9月30日認定
- みちのく潮風トレイル 令和元年6月9日全線開通

種差海岸 散策ハンドブック 名作の渚。

発行：(一財)VISITはちのへ
TEL0178-70-1110
お問い合わせ：八戸市観光課
TEL0178-43-9536

みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

種差海岸 名作散歩

三陸復興国立公園の北の玄関口である種差海岸は、荒々しさと、自然の芝原を抱えた優しく風光明媚な景勝の地。数多くの名作の舞台となり、映画やテレビドラマの舞台として利用されています。

文　章／江刺家 均
写真撮影／米内 安晋

吉田 初三郎（よしだ はつさぶろう）（画家・鳥瞰図作家）
写真は鮫島、種差の鳥瞰図

大正の広重と呼ばれた俯瞰図画家。昭和10年に種差にアトリエ「潮観荘」を構え、種差海岸を国の名勝に指定させた功労者。昭和11年より種差を拠点に全国の鳥瞰図や作品を制作しています。

草野 心平（くさの しんぺい）（詩人）
写真は葉の口

種差海岸を何度か散策し「種差海岸」という題名の詩を発表。種差海岸の月を、“ザボンのような満月”と表題して、その美しさをたたえています。

菅沢 賢治（すがさわ けんじ）（詩人・文学者）
写真は、鮫駅舎

大正15年の夏に鮫の旅館に宿泊。旅の印象をもとに「八戸」という題名の文語詩を作り、鮫駅～種差周辺の風景を描写。また種差海岸を含めて、イーハトーブ海岸北端の町サーモと呼んでいます。

井伏 鱒二（いぶせ ますじ）（作家）
写真は、タイヘイ牧場から望む鮫角灯台

紀行文「久慈街道」の取材で八戸を訪れ、“鮫浦”の項で、種鼻から牧場地、釜ノ口周辺を描写しています。この時、鮫の石田家を宿泊拠点に、八戸市内、岩手県北、久慈地方を取材しています。

佐藤 春夫（さとう はるお）（詩人）
写真は、種差小学校校歌

昭和26年、28年に種差を訪問。また、種差小学校から依頼された校歌を作詞。草花の咲き乱れる海岸美に魅了され、「美しい海べ」という随筆文で種差海岸を絶賛しています。

東山 魁夷（ひがしやま かいい）（画家）
写真は、作品「道」の風景

昭和15年に種差を訪れ風景をスケッチ、昭和25年に再訪し、完成させた作品は「道」という題名で発表され画壇の注目を集め、東山魁夷の代表作として知られています。

水上 勉（みずかみ つとむ）（作家）
写真は、タイヘイ牧場

種差海岸は小説「父と子」の舞台の一つ。東山魁夷の作品「道」が好きだったことから、種差海岸を訪問し小説の舞台に設定。後に同小説の映画でもロケーションの場所にもなっています。

小杉 放庵（こすぎ ほうあん）（画家・歌人）
写真は、白岩

吉田初三郎の種差「潮観荘」を訪れ、海岸美に魅了され絶賛。芝生地から深久保海岸を散策。紀行文「陸奥の山河」で“白岩”をスケッチし、短歌を作っています。

川瀬 巴水（かわせ はすい）（版画家）

温泉と風景版画で知られた版画家。吉田初三郎が種差を拠点に活動を開始した頃種差を訪れ、深久保海岸の奇岩と海岸美を題能し、版画作品「深久保」を制作しています。

写真の作品は、「八戸深久保」昭和8年8月の作

大町 桂月（おおまち けいげつ）（文学者）
写真は、物見岩からの展望

最初の十和田湖訪問の際に鮫・種差海岸を訪れ、旧八戸シーガルビューホテル跡隣接の「物見岩」からの展望を「一望二十万石の眺め」と表現し絶賛。海景の種差海岸と山間渓谷の十和田湖を対比させています。

谷川 俊太郎（たにかわ しゅんたろう）（詩人）
写真は、岩場に咲くハマナス

寺山修司祭のための八戸を訪れた際、三浦雅士（評論家）、浜田剛爾（舞踏家）を村次郎（詩人）らの案内で種差海岸を散策、同行者の求めに応じて“はちのへの詞書をよせています。

三浦 哲郎（みうら てつお）（作家）
写真は作家の著者

八戸市出身で名誉市民でもある芥川賞作家三浦哲郎は、鮫町と種鼻周辺を「海の道」、灯台と蕪毛崎周辺を「草の宴」、中須賀、釜の口周辺を「晩夏を飛ぶ夕雨子」の舞台として作品を描いています。

夏堀 正元（なつぼり まさもと）（作家）
写真は、鮫島のウミネコ

八戸中学校時代に文学に開眼した作家。デビュー時の作品「愛の傷み」をはじめ、「海猫の襲う日」「北の墓標」などに鮫島や鮫、種差海岸や草花の咲き乱れる風景が描かれています。

北村 小松（きたむら こまつ）（作家）
写真は、ハマギクの花

八戸出身の作家で戯曲や脚本でも活躍。少年時代から白銀海岸や鮫、種差海岸を散策。随筆や小文で紹介し、「湘南・鎌倉海岸以上の美しい海辺」であると絶賛しています。

司馬 遼太郎（しば りょうたろう）（作家・文学者）
写真は、種差海岸芝生地

街道を行くシリーズ「陸奥のみち」取材のため八戸を訪問。種差海岸の風景や、幻の詩人と呼ばれた村次郎を紹介。どこか宇宙からの来訪者があったら一番先に案内したい海岸、と表現しています。

種差を散策した 文学者 芸術家

八戸の海岸線が行楽や風光で注目され始めたのは、明治20年代のことでした。八戸の人々を中心に風景の素晴らしさが紹介され、石川啄木の友人、内田秋蛾が鮫海岸を遊遊したのは30年代末。明治41年には**鳥谷部春汀**の紹介で名文家として知られた**大町桂月**が鮫～種差海岸を訪れてその風景を絶賛して以来、全国に知られるようになりました。**柳田国男、釈迢空、棟方志功、関野準一郎、狩野享吉、増一雄、玉川一郎、三木卓、依頼子、松岡洋子、磯村英一、井出孫六、色川大吉、林望、大野林火、石原八束、大竹弧悠、馬場あき子、窪田章一郎、佐藤佐太郎、岐谷小波、柳原白蓮**…など百を超える文学者、芸術家の作品や、文章にその印象が描かれています。

映画ロケーションの舞台

風光明媚な種差海岸の景観は、映画のロケーションの舞台としても利用されています。種差海岸ロケの映画は**「幻の馬」**（若尾文子・早坂久太郎）、**「愛と死」**（栗原小巻）、**「モダン道中-その恋待ったなし」**（佐田啓二・岡田茉莉子）、**「泪血児ひかーひとりゆくオテふし歌」**（青木リカ・倉山泰司）、**「看護婦のオサジかんばる」**（前田吟・佐藤オリエ）、**「季節風」**（野口五郎・大竹しのぶ）、**「父と子」**（中井貴一・三原順子）、**「伊藤の話」**（温水洋一）、**「津軽百年食堂」**（オリエンタルラジオ）、**「ライアの祈り」**（鈴木杏樹・宇梶剛士）などが撮影されています。他にテレビドラマでは**「皇子ひとり」**や**「ドラマ海峡」**、**「冬構え」**、**「制服捜査」シリーズ**など、数多くのテレビドラマの舞台でも利用されています。

種差海岸 渚の花図鑑

北限植物と南限植物がとなり合い、波打ちぎわに高山植物が咲く。街からそう遠くない所に、多様な草花が共生する場所が種差海岸。春から秋まで、かわるがわる、競うように花が咲く浜辺は、まさに異次元の世界。訪れる人々を、潮風とともに癒してくれます。渚の花図鑑を片手に、時間を忘れてさすらってみませんか。

文章・写真提供／高橋 晃

ミチノクフクジュソウ
パラボラアンテナの形の花が春の日光を集め、花の中心を暖める。花粉を運ぶ虫を集めるためという。
花期・4月～5月

アズマギク
開けて乾燥した草原を好み、まだ緑の少ない芝地に群生する。南部藩の放牧の歴史の生き証人である。
花期・4月～5月

サクラソウ
春は湿地で、秋には乾燥するような場所と成育環境に厳しい。盗掘により絶滅が心配される。
花期・4月～5月

コケリンドウ
新緑のシバに埋もれるように咲く。種差にはよく似たフデリンドウもあり、根生葉がないことで区別できる。
花期・4月～5月

キジムシロ
雄の敷物という名のとおり、平たく押しつぶしたような株をつくる。よく似たカワラサイコの類もある。
花期・4月～7月

ハマエンドウ
砂浜や磯に水を蓄える厚い葉を広げ、美しい花をつける。小さな若い実は、浜の子供のおやつとなった。
花期・4月～6月

コウボウムギ
砂に埋まると根茎を伸ばして葉を出す。砂を固定して砂丘をつくる。太い花穂を弘法大師の筆に見たてた。
花期・4月～8月

ハマニガナ
花の形からハマイチョウの名も。長く地下茎を伸ばすので、どこまで続いているかをだどることができる。
花期・4月～10月

エゾノレンリソウ
つる性のマメ科のなかで珍しく湿った草地を好み、ほかの草にからみつく。海霧で花の鮮やかさが増す。
花期・5月～7月

フナバラソウ
山地や海岸の草原に、ややまれ。ボート形の果実がこの名の由来。この地域で「チドメ」とよぶガガイモの仲間。
花期・5月～7月

オオハナウド
大型のセリ科植物。直径50cmほどになる大きな花序をつけるが、一つ一つの花は大の字型で美しい。
花期・5月～7月

ハマナス
砂浜の後方で穀をつくる。果実を「海の梨」と見たてた。県南地方は盆の供物とする。白花もまれにある。
花期・5月～8月

アサツキ
草原から岩の上まで生育。花の形でネギの仲間とわかる。ネギより薄い「あさぎ色」の葉が名の由来。
花期・5月～7月

エゾノシシウド
厚く照りのある葉で、初夏の草原や岩の間に咲く。北方の海岸性植物で、種差を南限とする代表的植物。
花期・5月～7月

キリンソウ
草地や岩上に生育し、厚い葉で厳しい環境に耐える。根が想像上の動物「麒麟」の足に似ているという。
花期・5月～7月

マイヅルソウ
秋に赤い実をつける。葉は手のひら大が普通だが、種差では5B5版の大きさに、海抜0mの原山植物。
花期・5月～7月

ニッコウキスゲ
湿った草地に群生。花は一日花で夕方にはしぼむ。ゼンテイカの名もあり、万葉集に“忘れ草”と詠まれる。
花期・6月～8月

ノハナショウブ
湿った草原に生育。ハナショウブの原種で、紫色と複雑な構造の花は、花粉を運ぶ昆虫と共進化したもの。
花期・6月～8月

スカシユリ
花弁のすき間が名の由来で、岩の上に咲く。種差の「国の名勝」指定でとりあげられた花のひとつ。
花期・6月～8月

エゾオグルマ
種子や根が海を漂い、打ち寄せられた海藻を養分として波うちぎわに大きな群落をつくる。種差が南限。
花期・7月～8月

エゾミツハギ
湿った草原に目立つ。種差にはミツハギもあり、萼で区別できる。旧盆のころに咲くので盆花とも呼ぶ。
花期・7月～8月

キタノコギリソウ
葉の形が名の由来。北方の海岸草地に咲く花は白から淡紅色まである。種差には色の濃いものが多い。
花期・7月～9月

ツリガネニンジン
つり鐘形の花の朝鮮人参という名。種差では、花期が長く株数も多い。何品種かに分けられるという説も。
花期・7月～10月

マルバダケブキ
風の強い草地に生育する。「丸い葉の高山帯の蕗」という名で、海抜0mの高山植物のひとつ。
花期・8月～9月

エゾフウロ
高山植物ハクサンフウロの変種。風の強い種差海岸に咲く花は器修のダンショウコよりも大きく毛が多い。
花期・8月～9月

ハチノヘハクセン
葉は厚く茎に長くヒレを引く。北上山地の特産種ナンブトウヒレンから新種として独立した種差の固有種。
花期・8月～9月

エゾカワラナデシコ
北方の草原に生育する野生のナデシコ。変種であるカワラナデシコよりも鮮やかで大ぶりな花をつける。
花期・8月～9月

シロヨモギ
北方の砂浜に大群落をつくる。密生した白い毛は、乾燥と飛砂から身を守り、夜露を集めるためという。
花期・8月～10月

コハマギク
岩上や草地に群生。花はハマギクよりやさしげ。秋の草原一面に咲く光景を見ると、以後見頃ることはない。
花期・9月～10月

ハマギク
日本のキク科植物では珍しい低木性。千葉県以北の太平洋岸に分布する日本の固有種で種差海岸が北限。
花期・9月～10月

三陸復興国立公園 国指定 名勝 種差海岸 散策ハンドブック 花の渚。

青森県八戸市

野生植物を大切にしましょう。
採らない！折らない！踏みつけない！
種差海岸に生息する植物の採掘などは法律で禁じられております。

種差海岸 Tsugaru Kaikyo